

第22回 JICE研究開発助成成果報告会

公民連携による公共空間 ネットワークの形成に関する研究

－札幌市を事例として－

2022年5月31日

工学院大学建築学部まちづくり学科

星 卓志



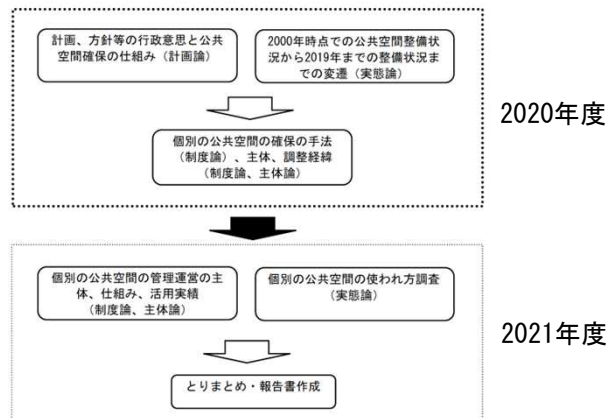
1

本研究の構成

背景：都心部での公共空間の整備、活用が全国的に活発化



目的：効果的に進めるための知見を札幌の事例から得る



2

1 背景、目的と方法

2020年度調査で明らかにしたこと

- ・ 計画体系の中に公共空間ネットワークの形成方針を明示していること。
- ・ これを効果的に実現するための協議メカニズムが成熟していること。
- ・ 公共施設と建築敷地内公共空間が有機的にネットワークされていること。
- ・ とりわけ、まちづくりガイドライン策定地区で顕著であること。

3

1 背景、目的と方法

目的：札幌都心部における公共空間のマネジメントと滞留機能に着目した使われ方の実態を把握すること

本研究の構成

- 2章：滞留機能を有する主要公共空間の整備経緯等
- 3章：調査対象公共空間のマネジメント
- 4章：公共空間における滞留活動
- 5章：まとめと考察

方法： ●札幌駅前通まちづくり会社の関係資料
●滞留機能を有する主要な空間におけるアクティビティ調査

4

2 滞留機能を有する主要公共空間の整備経緯等

3 調査対象公共空間のマネジメント

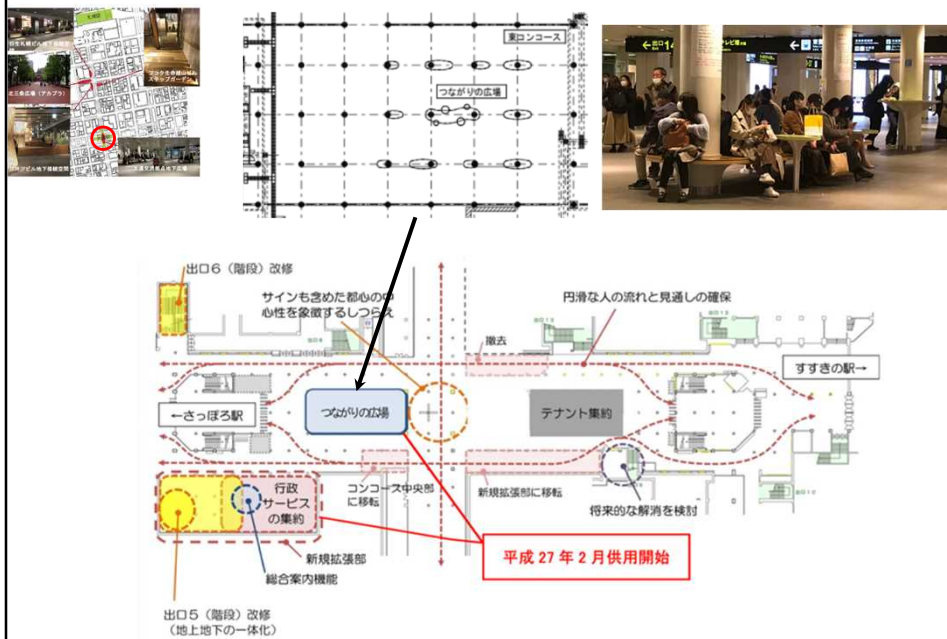
5

2 滞留機能を有する主要公共空間の整備経緯等 3 調査対象公共空間のマネジメント



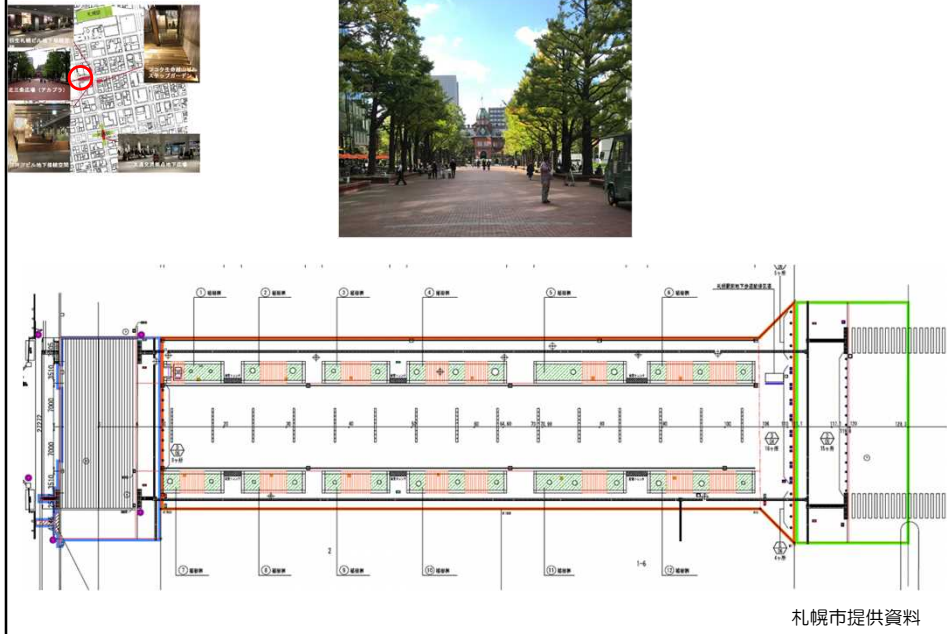
6

大交通流拠点地下広場

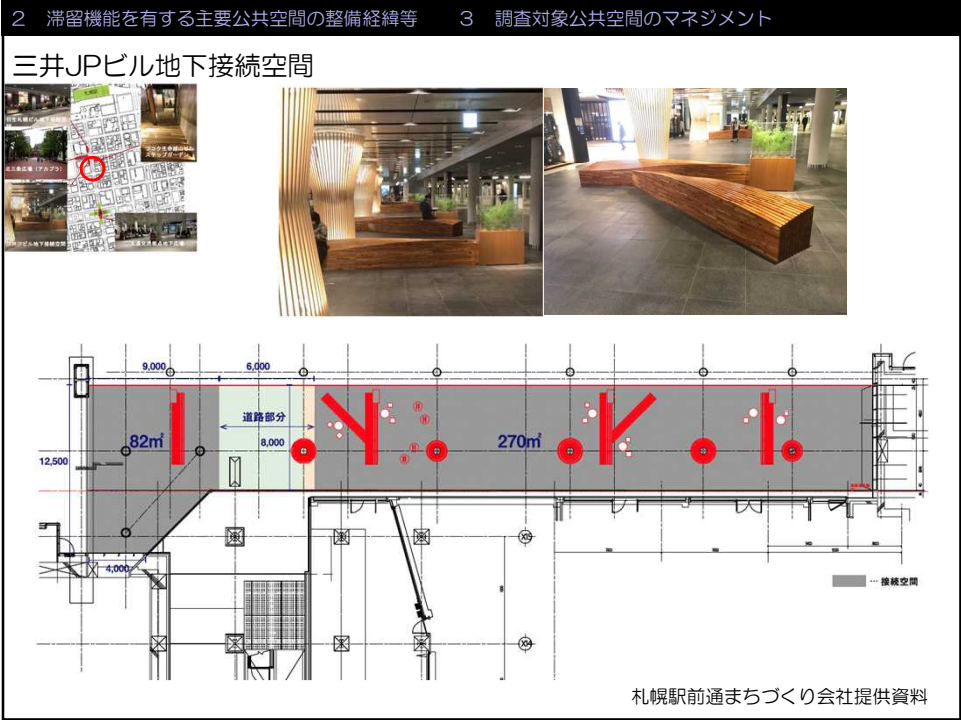
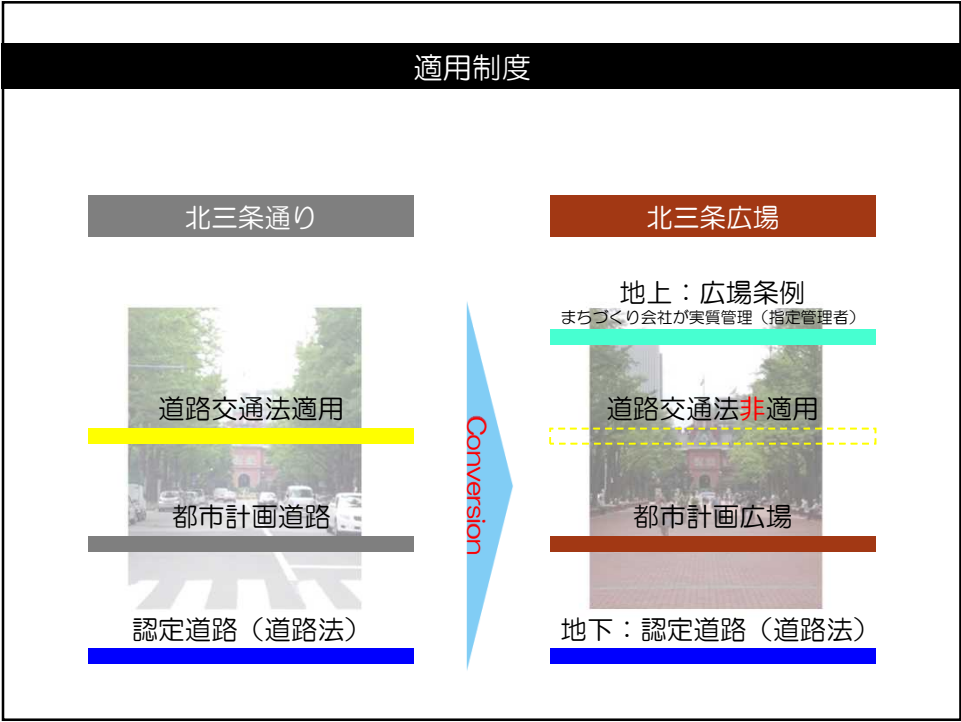


7

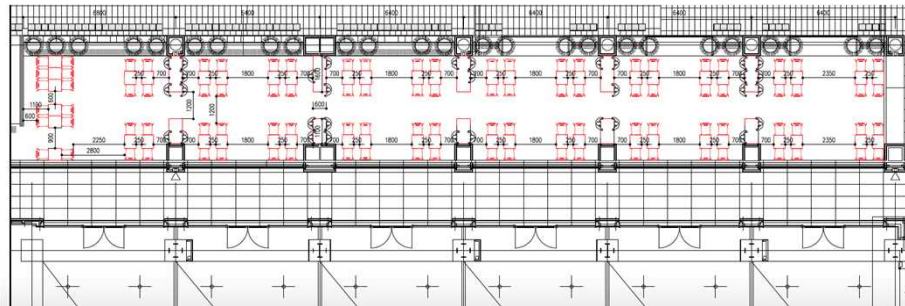
北三条広場（アカブラ）



8

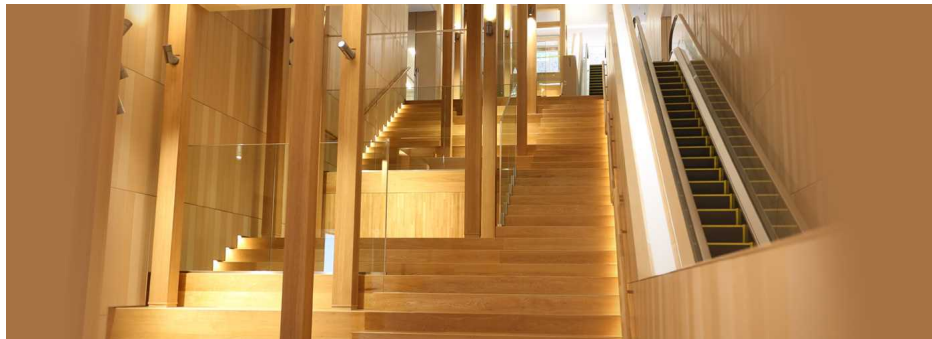


日生札幌ビル地下接続空間



札幌駅前通まちづくり会社提供資料

フコク生命越山ビルステップガーデン



sitatte sapporo HPより

4 公共空間における滞留活動

13

4 公共空間における滞留活動

アクティビティ調査の実施概要

第1回 北3条広場（アカプラ）

- 10月10日（日） 8：00～17：00
- 10月11日（月） 10：00～17：00（早朝は雨天）

第2回 上記以外（屋内空間）

- 10月22日（金）、23日（土）、24日（日）、25日（月）
8：00～19：00

14

4 公共空間における滞留活動

調査票の例（北3条広場：アカブラ）

アクティビティ調査票
【アカブラ②】

日付 10/10(土) 天候 晴 雨 風 晴れ・曇り・なし 気温 20℃ 観察者名 北条

【0:00 ~ 0:09】

【0:10 ~ 0:19】

【0:20 ~ 0:29】

【0:30 ~ 0:39】

※年齢、連続滞在者の記載を忘れないように

※年齢、連続滞在者の記載を忘れないように

※年齢、連続滞在者の記載を忘れないように

※年齢、連続滞在者の記載を忘れないように

【性別】
男性：青色で記入 女性：赤色で記入

【年齢】
9歳：① 10代：② 20代：③ 30代：④
40代：⑤ 50代：⑥ 60代～：⑦

【アクティビティ】

記号	アクティビティ
a	スマホ、タブレット操作
b	座る
c	寝る
d	会話
e	ただ座っている
f	電話
g	おしゃべり
h	仕事
i	音楽を聴いている
j	PCを使っている
k	食事
l	休憩
m	荷物整理
n	散歩
o	事務的作業
p	飲み物を飲む
q	立ちまわりの活動
r	座る・寝る・歩く・走る・走る・走る

【グループ属性】
グループは丸で囲む。家族の場合は墨んだそばに「家」を書いておく

【連続滞在者】
複数時間連続でいる人：20分以降20分
→30分づつのように丸に線を増やしていく

15

4 公共空間における滞留活動

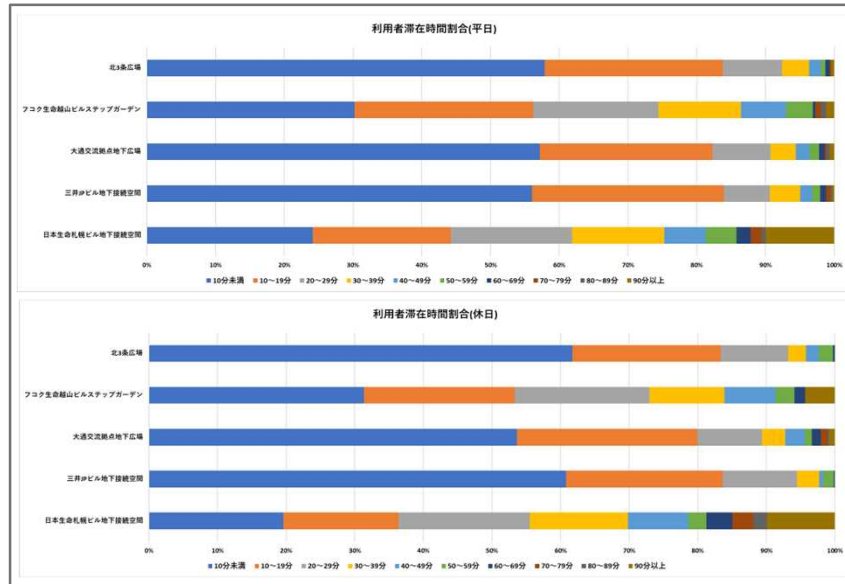
滞在者数の概要

	滞在可能数	平日		休日	
		滞在者数 (1時間あたり)	利用率(%)	滞在者数 (1時間あたり)	利用率(%)
北3条広場	503	66.1	13.1	81.6	16.2
ステップガーデン	81	23.5	29.0	23.2	28.6
大通交流拠点 地下広場	60	130.4	217.3	125.0	208.3
三井JPビル 地下接続空間	60	62.3	103.8	59.4	98.9
日生ビル 地下接続空間	48	44.8	93.4	41.3	86.0

16

4 公共空間における滞留活動

利用者の滞在時間別割合

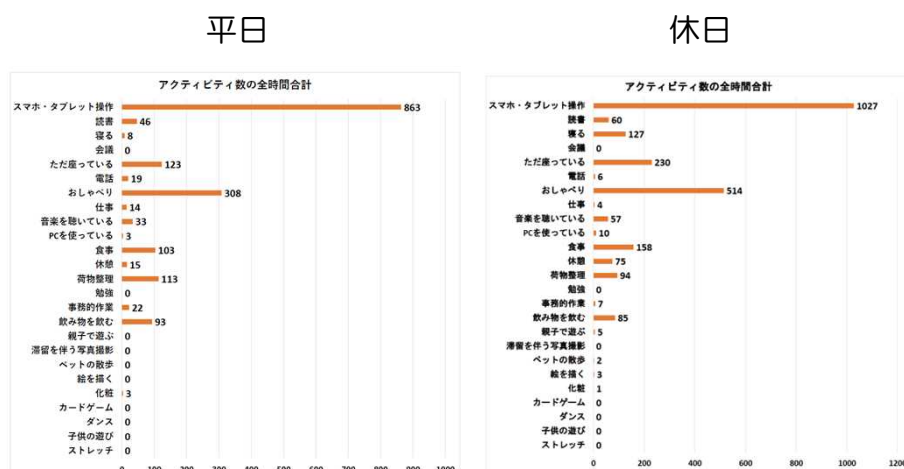


17

4 公共空間における滞留活動

アクティビティの発生状況

例：大通交流拠点地下広場



18

4 公共空間における滞留活動

アクティビティの発生状況

- 共通して「おしゃべり」と「スマホ・タブレット操作」が特に多い。
- 休日では、北三条広場、日生札幌ビル地下接続空間、フコク生命越山ビルステップガーデンで、「おしゃべり」が最多
- 「食事」は平日、休日とも発生しているが、平日の方がより多い。
(ベンチのみ設置の三井JPビル地下接続空間では、多くない。)

- 「荷物整理」: 三井JPビル地下接続空間、大通交流拠点地下広場で多い。



多くの荷物を持つ歩行者が、その歩行行動の延長で障害なく荷物整理の行動に移ることが可能な空間

19

4 公共空間における滞留活動

アクティビティの発生状況

- 三井JPビル地下接続空間とフコク生命越山ビルステップガーデン
4人、6人といったグループで長時間会話をしている情景

長時間会話を楽しむことができる「居場所」になり得るという認識が、市民の中に浸透しつつあるのではないかな。



三井JPビル地下接続空間



フコク生命越山ビルステップガーデン

20

5 まとめと考察

21

参考：人のアクティビティが発生しない事例



22

総括的考察

札幌都心部

- 諸計画において公共空間のネットワーク形成の推進を位置づけ
- 具体的なガイドライン等を策定



- 公共施設と建築敷地内の公共空間が有機的にネットワーク



建築計画の段階においても、整備する公共空間の内容について協議調整するメカニズムが成熟

我が国都市では

- 整備内容について、基本的には建築主の提示するものを第一に尊重
- 都市計画決定プロセスの段階においては深く協議されることが稀



人々のアクティビティについて具体的に想定し、整備内容を検討することが不足

23

総括的考察

札幌都心部

多様なアクティビティを想定して公共空間を計画、整備



実際に多様なアクティビティが発生



都市住民や来訪者の生活の質の向上に貢献
＝都市の公共空間を豊かにすることの意義

今後重要

個々の公共空間の整備内容が画一化しないこと

- 行政、事業者、エリマネ団体とが深く協議しつつ
- 既存の公共空間の状況を俯瞰的に踏まえたうえで
⇒新たに整備する公共空間のあり方を検討する仕組みの確立

24